



月刊 おかじょうき

<http://www.okajiki.com/>

2023

2

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 1月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	26
十和田たてがみ川柳会 12月句会報	31
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	30
Infomation	34～

## カンテラ

きさらぎ

1月7日のおかじょうき例月句会のあと青森市内某所で懇親会を開いた。

句会に集まったのが男性8人女性8人の計16人だったから、懇親会に参加するのはせいぜい4〜5人だろうと思っていたら、何と9人。

対面での句会も楽しいし、わいわい懇親会を開くのも楽しい。

句会はこうでなければ、と思つた次第。

それではカンテラに明かりを点しましょう。

## A群

天高くねぎにんじんとポルカする  
ひらく  
やさしさを集めて寒い冬越える  
柳谷たかお  
甘すぎるなあと蜜柑に言われる  
芝岡かんえん  
取り敢えずの分だけ出しておく気力  
土田雅子  
いつになくあやしい笑顔ぶら下げて  
まみどり  
安売りの大根2本ドットコム  
宮井いずみ  
行人偏一人歩きが不得意さ  
田久保亜蘭  
重ね着を少しずらして春を聴く  
葉 閑女  
雪はこれからリリーマルレーン聴く  
吉田州花  
堂々とガラパゴス風であります  
四ツ屋いずみ

絶頂の手前あなたとする左折

須藤しのすけ

消すすべのないもの齧りりんご飴

米山明日歌

生き方を変えろよ溝のないタイヤ

石橋芳山

石橋芳山さん、「溝のないタイヤ」って芳山さんのことじゃないよね。溝がなくなるほど磨り減つたタイヤと  
言えば、私に呼びかけているような気がしてなりません。  
そろそろ生き方を変えるべきなんでしょうね…。

## B群

根も葉もある嘘で時間を引き止める 齋藤泰子  
空き瓶に濁流入れて持ち歩く 坂本清乃  
星の海完結編はどのあたり 辻井洋子  
約束は約束そんなラッピング ひとり静  
自画像に蛍光ペンを塗りたくる まきこ  
守秘義務があるのか雪だるま無言 柳本恵子  
じゃが芋の発声練習始まるよ 熊谷冬鼓  
トゲに生まれついたので鬼になれない きさらぎ彼句吾

きさらぎ彼句吾さん、「トゲに生まれついたので？」ウソでしょ。「生まれつく」は、広辞苑によると「生まれながら身にそなわる」ということ。句は創作だから、この句も創作だよ。あ、「鬼に」は「なれない」方がいいですよ。

## C群

スルメ噛む形で立ち枯れるつもり 三浦蒼鬼  
尻屋崎へミングウェイが泳ぎだす 小野五郎  
サザンカサザンカ脳内ゴミ屋敷 守田啓子  
いそいそと同伴出勤する尿瓶 岩根彰子  
老人はいいぞアナログがいいぞ 奈良一艘

三浦蒼鬼さん、「立ち枯れるつもり」って、人生1000年の時代だから40年後のことだよ？にしても、「スルメ噛む形で」って、ちょっと変わっていますね。青年を過ぎてからちよつと堅くなった辺りの自分を「スルメ」を噛むように何回も思い出すってことだろうか。旨いかな。

小野五郎さん、「ヘミングウェイ」って広辞苑に『ヘミングウェイ【Ernest Hemingway】アメリカの小説家。

「失われた世代」の代表的作家。小説「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」「老人と海」など。ノーベル賞。(1899～1961)』と出ているひとのことだよね。この句、「老人と海」のイメージかな。「ヘミングウェイ」さん、尻屋沖で本マグロと戯れていたりしてね…(汗)

守田啓子さん、「サザンカサザンカ」と来れば普通は「さいたみち」と続くんですけど、啓子さんの場合は「脳内ゴミ屋敷」と続くのですか。「さざんかさざんかさいたみちたきびだたきびだおちばたきあたるうかあたるうよしもやけおててがもうかゆい(作詞：異聖歌、作曲：渡辺茂)」という童謡は1941年(昭和16年)にNHKのラジオ番組「幼児の時間」で放送されたんだってよ。あ、関係ないね。「脳内ゴミ屋敷」と言えば、私の「脳内」もまさに壮大な「ゴミ屋敷」です。

岩根彰子さん、「同伴出勤」って今もあるのですか。ネット検索したらあるページに「いわゆるキャバクラなどの

風俗店で、ホステスが男性客を連れて出勤すること。早い時間から客の入店を獲得する、客引きよりも確実に客を引ける、といったメリットがあるとされる。」とありました。でも、彰子さんの場合はそんなじゃなく、「尿管」と「同伴出勤」だものね…。これって彰子さんの現実じゃなく、やっぱり創作だよな…(汗)

奈良一艘さん、「アナログがいいぞ」なんて言っていて、実はスマホを駆使しているじゃないですか(笑)私も老人だけど、ガラケーで、「老人はいいぞ」なんて思っています。一艘さん、もしかしたら自分の周りの若者をアナログ派の老人にしてしまおうなんて考えているんじゃない?でも、何でだろ(汗)

おかじょうき川柳社会員雑詠集

# 無人駅

★無人駅1月月間賞

ドリフトの痕跡があるデンデラ野

小野五郎

### 岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

重箱の四隅で骨折しましたの  
雪虫がふわり手術を先導す  
パラフィン紙の向こう助演男優賞  
いそいそと同伴出勤する尿瓶  
焼印ですか黒靴下のネーム

メダカの学校を二年で中退  
同じく中退組ですが何か？  
田久保亜蘭

### 上村夢香【うえむらゆめか・山口県岩国市】

新しいページを捲る長谷寺で  
鎌倉の学び直しをさせられる  
生徒らの元気な笑顔ほっこりと  
通学路半袖もいる雪の朝  
米を研ぐ明日の命予約して

夜が明けるチャンスを二度と逃すまい  
チャンス到来、この瞬間を最大限生かせと活をいただい  
て。  
村井規子

### 小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

尻屋崎へミングウェイが泳ぎだす  
十三の砂山太宰の影が伸びていく  
逃げ水を追いかけて行く文左衛門  
ミラージュが喉に絡まる北突堤  
小波かうインクなのか花祭り

山頂で飛ばうとしてる亀の群れ  
戦地へ亀の救援隊。飛へると思います。  
むさし

### 金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

ドローン曰く、俺のイメージ悪くなる  
迎撃の出合い頭はドーハかな  
法悦に浸った日から白目がち  
妻の髪は櫛名田姫となる余生  
浜焚火あの残像で生きて来た

溜め息で壊してしまおう空気感  
根も葉もある嘘で時間を引き止める  
きれいな事言ってしまった日の疲れ  
多様な私の癖もそのひとつ  
かわいそうと言われやさしくされている

### きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

フリーズしそう低血糖のパソコン  
バーボンなくちづけ遺すねこじやらし  
かたつぱしからコルク抜いてもまだ逢えぬ  
トゲに生まれついたので鬼になれない  
つららになつてしまつたちぶさ でも乳房

焼き芋で復習劇を組み立てる  
土田雅子

### 熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

じゃが芋の発声練習始まるよ  
ユーミンを歌うと音痴止まらない  
目力のあるリングゴから対処する  
中腰のままで利き手の裁ち鋏  
言いたいこと言つて夜更けのおでん鍋

鈴は波の波は鈴の音がする  
目をつむると波と鈴のコラボ聴こえます。  
安藤なみ

### 斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

物見遊山で生まれてきたわけよ  
そうか。色々見たくてこの世に来たんだ。だから色んな  
事にぶつかるんだ。そっか・・

何時からか活字の匂い忘れたよ  
ティータイム湯気の向こうの冬木立  
予定は未定とイチャモンつけられた  
五七五の風よ来てくれ前頭葉  
空き瓶に濁流入れて持ち歩く

### 坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

先月号のお気に入り

先月号のお気に入り

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

円安につき世界旅行は絵葉書で  
月が哭く背に降るサクラいつも独り  
オミクロンをお前が燃やせ燃料棒  
容赦ない卓袱台返し煮えたぎる  
富士山頂を蚊取り線香で包囲せよ

先月号の  
お気に入り

「陰性か？」なんて女王陛下の屁  
こんな上品かつ下品な句が好きです。  
むさし

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

彷徨って同じ女にたどり着く  
銅鑼が鳴るわたくしがはみ出してくる  
落涙は迂闊でしょうか八代重紀  
人間だもの狡い時間が降り止まぬ  
甘すぎるなあと蜜柑に言われる

先月号の  
お気に入り

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

頭痛にめまいで時間が動かない  
無理をしないと人には説教す  
たつぷりと寝れば回復する疲れ  
目が覚めて靴がそわそわハイキング  
二十年わがままままに生きていく

先月号の  
お気に入り

思うほどひとりが好きじゃなわけじゃない 夏草ふぶき  
一人の時間は必要ですが、さみしがりやです。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

AはBを手に取りCとDした  
鬼の形相で小さめの氷柱折る  
お客様の中にワタシはいませんか？  
白いカラスは醤油の隣って言ったよね  
中也の詩集に世界をぶっかける

先月号の  
お気に入り

焼き芋で復習劇を組み立てる  
お手本のような組み立て方ですね。  
土田雅子

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

履き慣れた靴であなたについてゆく  
行き先はいつでも夢のせいにする  
寄書きに赤ペンで書くパスワード  
絶頂の手前あなたとする左折  
大丈夫明日はきつと泣けるはず

先月号の  
お気に入り

ゴム通し捜しにナ行まで歩く  
岩根彰子  
ゴム通しの代用として安全ピンはアリです。ナ行まで歩  
かなくても、サ行に沢山あるそうですよ。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

ちよつとした油断へ足元が崩れ  
尾骶骨長い尻尾が語り出す  
百点も赤点もいたボク赤点  
疑似針であるがいつぱい雑魚が釣れ  
母ちゃんよおいらを忘れないでくれ

先月号の  
お気に入り

常夜灯こつちを向いて欲しい夜  
辻井洋子  
ふだんは万人を照らす常夜灯。たまには私だけを照らし  
てほしいものです。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

年俸をちよつと越えてたヘルメット  
覚醒のひとつ手前で薪を焚く  
行人偏一人歩きが不得意さ  
他界から往復ハガキやつてきた  
踏まれたら踏まれた生きてきた

先月号の  
お気に入り

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

弱虫なわたしを追い込む術跡  
生き返るたび脱皮する母 おはよ  
戦場に届け命の光 ワー  
微妙です身体の調律願います  
ひまわりが恋しくなるの雪の下

先月号の  
お気に入り

まっさらなノートに君を泊ませる  
米山明日歌  
とつても 素敵な句 いいなあ

## 旅男【たびお・青森県五所川原市】

雪の曲者裏の用事のさらし足  
汚染土や証拠握って枯れ凍土  
おしなべて老人ホームの硬い窓  
百年の尺度に浸かる頭(かしら)かしら  
糞尿排泄円滑に忘年坊

先月号のお気に入り  
新車買うカラ傘お化けの有頂天 夏草ふぶぎ  
新車、カラ傘お化け、有頂天と親しみがある。新車は最高の贅沢と言った、お隣さんのようです。

## 辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

星の海完結編ほどのあたり  
毛並みから見ないで欲しい幸福度  
ゆで卵殻を剥いたら生きる音  
軽くなるラジオかけてる動いてる  
ミッションがいつもニコニコどうなのよ

先月号のお気に入り  
ゴム通し捜しにナ行まで歩く 岩根彰子  
ゴム通し、大事なものです。ワ行まで行くかも。

## 土田雅子【つちたまきこ・青森県青森市】

パトカーの訪問ご近所の視線  
毛羽立ったマスクを付けて何日目？  
向かうとこ敵無しだった黒歴史  
取り敢えずの分だけ出しておく気力  
隣家の婆さんにマークされている

先月号のお気に入り  
ゴム通し捜しにナ行まで歩く 岩根彰子  
『ぬ』、辺りで見つかりましたね？

## 夏草ふぶぎ【なつくさふぶぎ・青森県青森市】

干し鱈になった母さん首に巻く  
手のひらに乗るよな婆ちゃん肉喰らう  
能面の裏に隠れた月あかり  
なぐさめの味に包まれロゼワイン  
内気さと謙虚を隠す大吟醸

先月号のお気に入り  
空き部屋が蜂の移住に狙われる 渡邊こあき  
どうかニホンミツバチですよに。

## 奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

老人はいいぞアナログがいいぞ  
綺麗ごと言つてあそこら辺が痒い  
ロパクの人権擁護委員会  
パトリオットに色即是空と書いてある  
壺でも買おうか 凍れるなあ？

先月号のお気に入り  
次のうち正しくない父親を選びなさい Sin  
あのー、一艘、むさし、Sinと書いてあるのですが…

## 鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

初雪が根雪になったダメだった  
咳や痰しずめたよ失礼します  
暗闇の中で生まれた赤い星  
老人性いぼが右向く左向く  
潤滑油溢れ出たのか背が伸びる

先月号のお気に入り  
新品のまま大人まであと三歩 夏草ふぶぎ  
「あと三歩」にインパクトありました。

## ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

外觀で言えばアアよりパホイホイ  
約束は約束そんなラッピング  
冬日和なんか哀しいテラリウム  
短編は湖畔のベンチにもあつて  
どう思ふかな司馬遼太郎いたならば

先月号のお気に入り

## ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

風呂上がり今日一日と酒を酌む  
天高くねぎにんじんとポルカする  
猫の動線くじらからクレーム  
俎板の裏の傷跡マーチだわ  
第九をグラスたち皆謳う夜

先月号のお気に入り  
鈴は波の波は鈴の音がする 安藤なみ  
冬の荒れた海、山の中の湖の波、猫じゃらしの鈴。

まきこ【まきこ・青森県青森市】

自画像に蛍光ペンを塗りたいくる  
落ち葉舞うこれからなんてありません  
切り取り線の上で地団駄踏むカラス  
国歌斉唱青空遠くなる予感  
何話す午前三時のランデブー

先月号のお気に入り  
焼き芋で復習劇を組み立てる 土田雅子  
楽しいわ。組み立てただけで行動しないのかな。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

ゆらゆらと貫いてきた道だよね  
いつになくあやしい笑顔ぶら下げて  
満ち欠けを忘れた頃にたずね人  
結論を先延ばしする無駄話  
見送ればまた生温いごきげんよう

先月号のお気に入り  
どう生きる誰と生きるか最終日 まきこ  
そろそろ考えなくてはならないのかしら。。。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

人の眼がまだ気になっている若さ  
ガチャ付けて言い訳しても自分だな  
三丁目あたりに堕ちた資本主義  
スポーツの世界に道徳の欠片  
来年は句会に行くぞこ三年

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

線香が燃え尽きるまで母はいる  
かぐや姫帰るところが無くなった  
ペンネーム変えて生き方変えてみよ  
ぐちゃぐちゃで整理しきれぬ多角形  
夕焼けを飲み込んでいく水平線

先月号のお気に入り  
大人になるといつも降ってる火山灰 芝岡かんえもん  
同感です。年々視界不良がひどくなります。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

カミサマニナガイキスルトイワレテル  
スルメ噛む形で立ち枯れるつもり  
出会い頭にあなたと同じ海になる  
ロボットの素質あります凍豆腐  
やすきよのリズムで蟹を食べている

先月号のお気に入り  
「親ガチャ外れた」と言われる身として Sin  
反論をして欲しいですね

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

安売りの大根2本ドットコム  
まだともう赤い星から消えてゆく  
テロリスト桶屋奇應丸処方せよ  
QRコード読み込み反り腰を治す  
違うからお母ちゃんともキャベツとも

先月号のお気に入り  
7・3に構えた鳩に睨まれる 石橋芳山  
やっぱり自然体がいいですね。仕事でも遊びでも。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

神々しい金輪際を眺めてる  
水漏れの背中 クレソンよく育つ  
サザンカサザンカ脳内ゴミ屋敷  
戦争はやめると春が立ち上がる  
無防備に泳ぐあなたの湾の中

先月号のお気に入り  
スルーする男へ沼をぶちまける 宮井いずみ  
そんなことができちゃう川柳って面白い。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

くばられたトランプ明日は曇天です  
こんな満月たつた一人で見上げてる  
ひたむきな芝居春まで幕上からず  
守秘義務があるのか雪だるま無言  
安いプライドひっさげてバッテリーボックスへ

先月号のお気に入り  
週二日自己満足と揺れている 三浦蒼鬼  
週二日つてあれのことですよ。フッフ

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

手を繋ごうたつた一つの空の下  
夕焼けはふるさとからの贈り物  
肩組んで歩いた空も笑つてた  
寒い日が暖かくなるクレヨン画  
やさしさを集めて寒い冬越える

先月号の  
お気に入り

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

地吹雪に挑み除雪車ガーガーガツ  
凡婦でいいちやんと地に足着いてるもん  
ウイルスになれば気づいてくれますか  
野に置けと言われてレンゲ大あわて  
重ね着を少しずらして春を聴く

先月号の  
お気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

誕生日散華散葉と花びらは雪  
冬至まで指折りなげく十二月  
雪はこれからリリーマルレーン聴く  
キッチン改造これで終りの春の柄  
クロス張るここから心動かぬように

先月号の  
お気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

唇を囁んで現実から逃げる  
月が出る瞬間ふわり暖まる  
健康つて眩しい朝日青い空  
大歓声 頭から飛び出る音符  
大海のごきげんようを真に受ける

先月号の  
お気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

堂々とガラパゴス風でおります  
牛乳を飲まなかったばかりに今  
上つ面滑り続けてジャンプ失敗  
10字以内でしつげんをうめなさい  
すれ違う消化不良のまま 師走

先月号の  
お気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

水飴になつてしまった水たまり  
記憶にはない人映すべっこう飴  
消すすべのないもの齧るりんご飴  
二枚目を脱ぐときが好き変わり玉  
金太郎飴 あなたの顔はもう飽きた

先月号の  
お気に入り

思うほどひとりが好きなわけじゃない  
夏草ふぶき  
そうかもしれません

ざっくりと楽しいことだけ考える 柳本恵子  
そうですね、それがいいですね。そうします。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

目で合図苦手な人がきましたよ  
すきま風吹いて妖怪現れる  
前期高齢津軽海峡航海中  
天然の鮭と胸張る切り身です  
町会のゴミ当番で年暮れる

先月号の  
お気に入り

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

人間の顔した神はおりません  
ニワトリとハトが仲良くなる時計  
春蘭のひよつとこ見せるカレンダー  
あつたかくなるためにある缶コーヒー  
核兵器ただ見せかけの見せかけの

先月号の  
お気に入り

処方箋どおりに年を取る肋 小野五郎  
肋だけ。年を取ってしまったら、マイナスになるので若  
返りました。

石橋芳山〔いしばしほうざん・島根県松江市〕

うかつにも影を盗まれたか寒い  
太陽が海へと滑り落ちていく  
生き方を変えろよ溝のないタイヤ  
粗挽きの作り話がチヨイ苦で  
ウイスキーが苦いまだまだ子供だな

号の  
先月  
お気に入り

むさし【むさし・青森県蓬田村】

肥大した前立腺と粗目雪  
吹雪く夜の吹雪となつてゆくうさぎ  
吹雪かれた顔面筋が踊りだす  
風の尾に掴まってくる誤字脱字  
名を呼べば歩き始める雪だるま

無人駅は自由な発表の場です。  
未発表作品5句をお寄せください。  
また、お手元の最新号から  
お好きな作品とそれに対する  
簡単なコメントもお寄せください。

# 一月じやないか

1月7日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(16名)

むさし・守田啓子・原口健二・熊谷冬鼓・奈良一艘・渡邊こあき・一帆・野沢省悟・きさらぎ彼句吾・笹田隆志・Sin・小野五郎・葉閑女・夏草ふぶき・吉田吹喜・須藤しんのすけ

▼投句者(19名)

安藤なみ・旅男・米山明日歌・金瀬達雄・岩根彰子・芝岡かんえもん・柳本恵子・城後朱美・宮井いずみ・石橋芳山・郷田みや・吉松澄子・高木まあこ・鳴海賢治・まきこ・坂本清乃・村上あつこ・田久保亜蘭・まみどり

おかじょうき川柳社

1月例会

宿題『包む』

青森県逢田村 むさし選

【佳作】

包まずにあげる私の一日一夜 渡邊こあき  
 二秒のハグですぐに花ひらく きさらぎ彼句吾  
 地吹雪に包まれ発車ベルが鳴る 葉 閑女  
 ごまめを包む一月七日は誕生日 笹田隆志  
 パンドラの箱はマトリョーシカでして 吉田吹喜  
 後の世ははずむつもりの心付け 葉 閑女  
 夕焼けに包む大腿骨一つ 守田啓子  
 ラッピング今の気もちは海の青 渡邊こあき  
 不細工がちまぎの皮に包まれる 夏草ふぶき

喪が明けて私を包む影が増え

過剰包装されてアンパン鯉呼吸

この胸を包むものなし冬木立

裏腹な言葉で包んでいる爆弾

プーチンの首を風呂敷待っている

柔らかくやさしい君の汚れた手

【秀逸】

風呂敷になれる優しさだつてある

ぐしゃぐしゃに包装紙なんかぐしゃぐしゃに

原爆を包む花柄のフロックコート

【特選】

微笑みにくるんで嘘を薔薇にする

↑ 微笑みつてすごいだね。

夏草ふぶき

熊谷冬鼓

奈良一艘

夏草ふぶき

野沢省悟

須藤しんのすけ

奈良一艘

S i n

笹田隆志

きさらぎ彼句吾

宿題『包む』

青森県三沢市 守田啓子選

【佳作】

風呂敷になれる優しさだつてある 奈良一艘  
 白亜紀につつまれてる臍の下 野沢省悟  
 ぐしゃぐしゃに包装紙なんかぐしゃぐしゃに S i n  
 僕のパーであなたの嘘包めます S i n  
 ラッピング今の気もちは海の青 渡邊こあき  
 解体現場を包んでいる黒い霧 小野五郎  
 推し活の流儀包装紙の如く 須藤しんのすけ  
 過剰包装されてアンパン鯉呼吸 熊谷冬鼓  
 喪が明けて私を包む影が増え 夏草ふぶき

包まずにあげる私の一日一夜

二秒のハグですぐに花ひらく

パンドラの箱はマトリョーシカでして

裏腹な言葉で包んでいる爆弾

満月を風呂敷に包む骨董屋

【秀逸】

その包み ひよつとしてオシラ様

プーチンの首を風呂敷待っている

序文跋文あんこは粒あんで

【特選】

この胸を包むものなし冬木立

↑ あー 切ない……。

渡邊こあき

きさらぎ彼句吾

吉田吹喜

夏草ふぶき

笹田隆志

小野五郎

野沢省悟

きさらぎ彼句吾

奈良一艘

# 宿題『朝』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

## 【佳作】

朝ラーずるずる能天気は無敵  
 言い訳は完璧でした今朝のパン  
 卵割ると朝がどろりと垂れ下がる  
 何もない静かな朝を予約する  
 食卓に昨夜の蛸壺のついで  
 あの朝がなければきつと咲いていた  
 セロトニンの朝ならもつともつと泣く  
 問うことをやめました朝の鏡  
 ステテコが朝のほとりで待っていた  
 片意地を柔軟剤につけた朝  
 おはようをロックで言うな寒鳥  
 夕焼けも朝日も戦闘態勢  
 朝の月食べて今まで生きてきた  
 寝返りを打ったら裏の朝がくる

奈良一艘  
 郷田みや  
 夏草ふぶき  
 むさし  
 小野五郎  
 米山明日歌  
 守田啓子  
 一 帆  
 野沢省悟  
 芝岡かんえもん  
 宮井いずみ  
 石橋芳山  
 鳴海賢治  
 旅 男

朝でしたロダンの考える人の尻  
 朝なんて嫉妬深くて孤独なの  
 賞味期限は日の出むさぼりあわなけりや  
 生乾きのジーンズはいたような朝  
 上等の黄身をセンター分けにして  
 空白をゆつくり埋めにくる朝日

野沢省悟  
 守田啓子  
 きさらぎ彼句吾  
 野沢省悟  
 岩根彰子  
 郷田みや

## 【五客】

猫とキス椎名林檎の朝である  
 純血の朝日を安く手に入れる  
 朝食の皿にのつてる不発弾  
 歯を磨く正義の味方のフリをして  
 不用意に約束をした朝になる

宮井いずみ  
 田久保亜蘭  
 むさし  
 奈良一艘  
 葉 閑 女

## 【人位】

デザートに一人ぼつちの朝乗せる

田久保亜蘭

## 【地位】

終わりです朝が一つになったもの

まみどり

## 【天位】

やわらかいとるに朝がきています

米山明日歌

❶ かわいところに夜が来ている可能性がありますね。

# 宿題『飛ぶ』

青森県弘前市 きさらぎ彼句吾 選

## 【佳作】

キウでは白夜 時々ミサイル  
 セクシーな角度エレガントな翼  
 思い出のサビのところで針が飛ぶ  
 飛ぶ位置は雪のはしっこからと決めている  
 飛ぶ前に現金投入して下さい  
 飛び立った後に解ける蝶結び  
 老々介護七色のしゃぼん玉飛んだ  
 ペンギンが空を見ているボクも見る  
 後期高齢空飛ぶカボチャ熟れています  
 飛び降りる前に仕舞っておく筈  
 信号は赤ひよいと夜空に飛んでみる  
 ピリオド打って遠くまで飛んでごらん  
 点線は思案そろそろ飛びますよ  
 残尿感あるし翔べないお歳だし

奈良一艘  
 吉松澄子  
 米山明日歌  
 S i n  
 小野五郎  
 郷田みや  
 一 帆  
 金瀬達雄  
 笹田隆志  
 郷田みや  
 まきこ  
 柳本恵子  
 葉 閑 女  
 奈良一艘

「いい人」を止めたら箆に乗っていた  
 舌の根が乾ききつたら飛んでいた  
 土壇場がやわらかすぎて飛べません  
 大根の花を見てから飛ぶのです  
 海馬から飛び立つステルス戦闘機  
 空を飛ぶいいえ月まで歩きます

野沢省悟  
 野沢省悟  
 守田啓子  
 守田啓子  
 石橋芳山  
 鳴海賢治

## 【五客】

少年をかあるく履いて大空へ  
 トビウオのだしを利かせた後頭部  
 祝日用笑顔でさつとテイクオフ  
 年金が羽化したあとの硫黄臭  
 逢うたびに君が教えてくれた空

田久保亜蘭  
 むさし  
 宮井いずみ  
 小野五郎  
 須藤しんのすけ

## 【人位】

前頭葉ほくほくさせてからジャンプ

まきこ

## 【地位】

毒素排泄開き直れる位置へ飛ぶ

守田啓子

## 【天位】

接続詞ばかり飛び交う四畳半

米山明日歌

❶ 四畳半の空間で接続詞だけで解り合える仲間だろうか。

# 宿題 『自由詠』

青森県弘前市 奈良一艘選

## 【佳作】

舌出したでしよマスクしても分かるのよ  
 歳とらぬ雪にぶつける愚痴つぶて  
 うさぎになっちゃうよそんなハグされちゃ  
 その人のタンパク質の濃さが好き  
 就活か終活するか誕生日  
 アラエツサッサ 戦争なんかやめなさい  
 一杯のうどん 総決算かも知れぬ  
 「いつか死ぬ」的な言葉を飼い慣らす  
 ウクライナを迂回しましたねサント  
 寂しがりやなのに一人になりたがる  
 始まりはサザンカ色に致します  
 白夜から帰るズボズボのフィヨルド  
 夫の背に隠し包丁を入れる  
 変調はしないつもりねシクラメン

吉田吹喜  
 熊谷冬鼓  
 きさらぎ彼句吾  
 米山明日歌  
 一 帆  
 守田啓子  
 高木まあこ  
 吉松澄子  
 安藤なみ  
 城後朱美  
 郷田みや  
 石橋芳山  
 夏草ふぶき  
 郷田みや

四六時中海だった頃のアゲハチョウ  
 抜け殻を人差し指に絡ませる  
 サイコロで決められていた雪の量  
 一匹の鬼と言葉の降る森で  
 底を叩くとそこは妖怪通り  
 装甲車なの霊板車なの ワカラナイ

## 【五客】

舌先で舌に小さな文字を描く  
 道草をすれば必ず迷子の「ん」  
 戦場に愛を持つてはいけません  
 どじょう掬ったか反旗掲げたか  
 戦略的冰雨滴の前頭葉

## 【人位】

冬のトリセツをあなたと読み耽る  
 【地位】  
 幸せに切り取り線があるなんて

## 【天位】

一月じゃないか鉤括弧を外せ  
 ① 鉤括弧がグサツと効きました。

小野五郎  
 一 帆  
 まみどり  
 むさし  
 岩根彰子  
 小野五郎  
 須藤しんのすけ  
 村上あつこ  
 坂本清乃  
 守田啓子  
 笹田隆志  
 S i n  
 米山明日歌  
 石橋芳山

おかじょうき川柳社：誌上句会

# 0 番線

- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者 (2句詠・共選)

# 題：『色』

選者

須藤しんのすけ (青森県)

奈良一艘 (青森県)

## 2/28 〆切

## 投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

### 【ウェブサイトからの応募】

http://okajoki.com/toku/0line.html へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



### 【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、守田啓子宛にメール送信してください。<送信先アドレス：moriko@okajoki.com>

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円 (発表誌呈) \*発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

## 賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

# 川柳吟行会「ぽ」課題『光』

昨年11月の一人吟行である。新型コロナウイルスは変異しながらいまだに居座つたままである。今回は冬季なこともあると思うが吟行というより題詠的な句が多いと感じた。

参加者は少ないが集まつての合評会は自分の読みの浅さを感じたり、思いがけない解釈や評が出てきたりして楽しい時間でもある。こうして合評一覧を読み進むと、同じ句を選んでいても選評はそれぞれ微妙に違う。17音のどの部分に惹かれて選んだのか。この微妙な違いもまた楽しい。(冬鼓)

【8点】特×2・佳×4  
プチプチを潰して発光しています 小野五郎

【しんのすけ】「プチプチ潰し」は負の感情を浄化しニュー

ことを思い出します。【州花】根っ子は「三丁目の夕陽」今思えばしあわせだった。【かなえ】何とも侘しいけれど、「的」を重ねたところにユーモアが生まれた。

【7点】特×2・佳×3  
陽が落ちる覚悟しなさい光りなさい 守田啓子

【達雄】世界、国、地域共同体、企業、家族、個人の落日。「覚悟しなさい」は諦めなさい、準備しなさい。「光りなさい」とにかく光って生きていくしかない。【さち】水平線に陽が沈む時が近いのに、まだ覚悟のない自分を叱咤されている気がする。もつとがんばらなくちゃと思う。【与生】「なさい」の繰り返しは虐待されているような怖さがある。毒親川柳。【しんのすけ】闇へ対し警鐘を鳴らす上から目線が神々しい。【冬鼓】自分に言い聞かせている作者。光るコツを聞きたいものだ。

【4点】特×2  
ブリリアンカットだったのよあの人 吉田州花

【文音】多角のダイヤモンドカットの光が「だったのよあの人」で欲望や羨望やら人間臭さが微妙に面白い表現。【五郎】わかりやすく面白表現。川柳エスプリが横溢。

トラルへ導く…と思う。ほんの数分後の未来は明るく輝く…はずだ。【冬鼓】プチプチ潰して発光するパワーを充電していたとは。熟考の時間だったのですね。意外な組み合わせに脱帽。【達雄】退行的？かもしれないが、発光しているのだからいい事。羨ましい。【柳本恵子】ストレス発散にプチプチ潰し、また前を向いてまいりましょう。【文音】発光した後の苦笑いとやるせなさはどうしても残る句です。【こあき】ストレス発散ではなくて発光するのならよかった。

【7点】特×3・佳×1  
四畳半の裸電球的生き方 守田啓子

【いずみ】若かった頃の「神田川」の世界。光の題から裸電球的生き方まで発想を飛ばしたのがいい。【隆志】貧しくもあり孤独でしかも暗く殺伐としていた青春時代の

暗室の赤いライトが証人です 滋野さち

【彰子】まるで星新一のショートショートの間歇に嵌ったようである。状況の赤いライトが雄弁で聴き惚れてしまう。【かなえ】光のない場所の光に発見がある。「暗室」と「赤いライト」が怖い。でも、そこが魅力的。

【4点】特×1・佳×2  
月食の余韻にひたるブリ大根 笹田隆志

【柳本恵子】月食という宇宙の大きなドラマと夕食のドラマの対比が面白いですね【善江】先日ので天体ショー、安土桃山の信長も観てたつて！「ブリ大根」が話しかけるのよ。【啓子】月食の余韻がしみ込んだブリ大根ともとれる。面白い。好きです。こういう句。

QRコード光り人恋う秋となる 小野善江

【与生】人間には判別不明なQRコード。それが光れば秋になるのだそうだ。「女心と秋の空」の変奏曲とも読めるがQRコードが効果的に使われている。【吉見恵子】秋の物淋しさが伝わる感性の句。【文音】何となく言葉で魅力が説明できないが自分を持って余す気持ちは伝わる。

けちけちしないで小春日を出しなさい 小野五郎

【朱美】「あっぱれ！潔くて、女性らしい句である。私もこんなふうに言ってみたい。【啓子】発想がユニーク。雪は出し渋りOKです。【こあき】青森の10月の空は出し惜しみせずに小春日が多かったです。」

【3点】特×1・佳×1

白湯の湯気光束ねて懶惰な日 笹田かなえ

【啓子】ゆっくり白湯をいただくことのできる贅沢な時間。「光束ねて」の表現の独創性に打たれた。【彰子】見つけに感心・ひねり具合が川柳。

足下を照らしてくれる文庫本 渡邊こあき

【吉見恵子】光でここに来ましたか。本の醍醐味が表現されています。【善江】文庫本の良さは、そう、足下を照らしてくれたりするので。蚊のミイラが入っていた文庫本！懐かしい！

【3点】佳×3

月光菩薩足の先から冬が来る 柳本恵子

【吉見恵子】月光菩薩の存在感と、冷え冷えとした足の先

【朱美】殺意は誰にでもあると聞いたことがある…。【柳本恵子】真新しい包丁ですね、試し切りは何にしましよるか。

小春日の遠雷 決意を聞いてくる 熊谷冬鼓

【朱美】ウジウジしている自分がいる。決められない。【さち】季語でいうと整合性がないようだが、「陽が落ちる」の句同様問い詰められている気がする。

オーラはピンクいつまでも子供 吉田州花

【かなえ】15音字で見事に成立している。発想もいい。【隆志】いつまでも子供っぽくてピンクのオーラがいい

産後すぐ私も光だった夏 村井規子

【与生】今は何になってしまったのか。産後に光はアンバランスであるがそれが産後なのだろう。【達雄】女性は光ですね。僕も光になってすぐ親戚回ったけど。

から冬の到来が伝わって来ました。【いずみ】そうそう冬は足の先から。【隆志】月光菩薩の足先はいつもとても冷たいのです

【2点】特×1

ありがとう大河になったペンライト 渡邊こあき

【善江】秋の暮はペンライトも懐かしくうれしい。それは大河のように広がっている。今の私は「ありがとう」しかないのです。

人間は光の束で影も濃い 金瀬達雄

【規子】一読して嬉しくなり拍手してしまった。これという成功を何ひとつしてこなかった私でもまだ光なのかな。

目の前をスポットライトが逸れていった 滋野さち

【こあき】次は私の番と思っているとスポットライトは別の人へ。スポットライトが当たると目の前が真っ暗闇になるのを知っていますか。

【2点】佳×2

包丁のざらり光っているところ 宮井いずみ

【1点】佳×1

冬眠に入るまぶしさに負けたから 城後朱美

上書きで生きる希望をぬりかえる 柳本恵子

ハンカチに光り包んで食べている 福田文音

新宿を纏う玉蟲色マント 岩根彰子

夜のカフェをはっきり光る油虫 小野善江

函館山に啄木の残照 小野五郎

日の当たる場所から鬱が逃げていく 城後朱美

私らしく生きる光は鳩尾に 吉見恵子

新品のママチャリ再再婚だい 岩根彰子

石段の一步一步に射す西日 熊谷冬鼓

稲光りみな晩年の顔をして 月波与生

# 深艘心理

ラーメンとうどんでアダルトな話

石橋芳山

(会員雑詠集 無人駅12月号より)

日本人がよく食べる麺には、ラーメン、うどん、そばがある。それぞれの好みにより今までは激しい派閥争いが繰り広げられてきた。ラーメン店がミシュランの一つ星を獲得して話題になりラーメン専門の雑誌が誕生したり、急激に勢力を伸ばして全国的チェーン展開をしている○○製麺や、昔から衰えの知らない駅そば。インスタント麺やカップ麺そしてそれぞれの麺が冷凍して食品となった辺りから熾烈な争いが繰り広げられてきた。

そこで、ある食品メーカーが全国の一斉調査を行なった結果が驚きである。

「よく食べる麺」の42.3%を獲得したうどんが1位、2位は35.6%のラーメン。ソバはわずか8.9%にすぎなかったのだと言う。まさに低価格で家庭で食べやすい順位がその結果として現れたのであろう。

ま、それはともあれ、長い前段ではあったが、そんな庶民が食す、うどんとラーメンはどちらも庶民。掲句はそんな庶民がアダルトな話をしているという。

アダルトは大人という意味なのだが、近頃はアダルトビデオに始まりアダルト雑誌とか：あまり良い意味では使われていない。

と言うことはつまり、うどん好きな初老の男とラーメン好きで働き盛りのおじさんがどーってことはない少しスケベチックでどーでもいいよーな話をしてたんでしょーなあ。

「オイラよー、この間吉牛へ行ったらさ、バイトのかわいい子ちゃんに告白されちゃったんぜえ」

「えー、まちかよ。店で言われたのかよ」「おーよ、伝票に(大スキ)って書いてたもんな。うん。」「あんなあ、それはオメエ、すき焼きの大盛りを頼んだからやないかいな。」チャンチャン。と、まあアホらしいことこの上もない。が、しかしだ。車のハンドルにもあるように、少しのアソビが人生を豊かにしていると言うことを忘れてはならないのだ。アソビとムダがあるうちは人生まだ捨てたもんじゃないのだよ。うむ。

## 十和田たてがみ川柳会十二月句会

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題 『騙される』 村上 昌子 選

【平抜き】

柔らかい口調で誘う詐欺電話

騙されて億の献金地獄底

欲を出しうまい話に騙される

騙されて一緒に居るの背を向ける

騙す奴知って居るので背を向ける

騙された女の影に躓いて

ワダワダに亭主と知りつつ電話切る

つまらないオトコへ今宵また惹かれ

矢印を選び また騙されている

【秀逸】

ほほ笑みに乗り過ぎていた騙し舟

木村奈生美

斉藤 蛙井

福田 芳記

佐藤まさあき

久保あざみ

高田 幸柳

中村 英三

瀧尻 善英

瀧尻 善英

木村奈生美

騙された政治に民の反旗揚げ

【特選】

イケメンに化けたタヌキに騙される

■席題 『騙される』

【平抜き】

美人ママパパは喜び騙される

騙された女の影に躓いて

欲を出しうまい話に騙される

勧誘の電話対応黙秘権

騙されて一緒に居るの背を向ける

オレオレと息子を騙る電話口

騙された政治に民の反旗揚げ

騙されて苦笑いして一人酒

しまったあCMについて乗せられた

柔らかい口調で誘う詐欺電話

【秀逸】

泣いた子を母は騙して寝かしつけ

丁寧な言葉の裏で欺かれ

【特選】

夫婦仲騙し騙され味が出る

高田 幸柳

瀧尻 善英

瀧尻 善英 選

村上 昌子

高田 幸柳

福田 芳記

高田 幸柳

佐藤まさあき

佐藤まさあき

高田 幸柳

久保あざみ

村上 昌子

木村奈生美

佐藤まさあき

村上 昌子

村上 昌子

斉藤 蛙井

■宿題『単純』

久保あざみ 選

【平抜き】

また夕マが頭突きで語る頼み事  
 単純な事しか知らぬ石頭  
 単純な片足立ちが難しい  
 幼子の嘘がバレバレ目をそらし  
 単純な玉子焼きほど味深い  
 単純な暗算老化防止策  
 実直で一たす一は必ず二  
 コロナ禍に食う寝るテレビこなす日々  
 単純な思考の方が実る恋  
 タバコ吸い大酒飲んで今クスリ  
 単純に忘れられない年金日  
 札束で直ぐに鳴き止む虎を飼う  
 単純に見えて裂き織り奥深い

村上 昌子  
 木村奈生美  
 佐藤まさあき  
 高田 幸柳  
 磯島 雅男  
 磯島 雅男  
 中村 英三  
 村上 昌子  
 城後 朱美  
 中村 英三  
 木村奈生美  
 瀧尻 善英  
 佐藤まさあき  
 【秀逸】  
 ひと桁の足し算孫の手が動く  
 勘違い一歩前進したつもり  
 【特選】  
 単純な男押しそう核ボタン  
 瀧尻 善英

■宿題『竹』

斉藤 蛙井 選

【平抜き】

水鉄砲竹で作った昭和の子  
 竹林バツサリ狸のお引越し  
 竹割ったような女でまたフラれ  
 おでんには根曲竹がかかせない  
 真っ直ぐな竹に憧れ生きてきた  
 豪雪もはね返してる竹林  
 しなやかに生きよと竹に教えられ  
 かぐや姫介護で嫁に行きそびれ  
 竹竿に洗濯を干す母が居る  
 青空に吸い込まれていく竹とんぼ  
 蒼天へ真っ直ぐ竹の子が育つ  
 松竹梅地位など要らぬどれも好き

北国は根曲竹の春を幸う  
 虎落笛竹垣泣かし冬の風  
 【秀逸】  
 不況風立派な熊手握る夢  
 磯島 雅男

■宿題『黙る』

互選

①以前なら黙っていても利子が付き  
 ①糟糠の妻より本音終いに出る  
 ①渾身の料理食通唸らせる  
 ①黙らない侵略やめろプーチンよ  
 ①信たたず黙せば石も叫び出す  
 ②武器買わず九条守るなら黙る  
 ②カミさんに捲しかけられ黙り込む  
 ④黙秘する心の鍵は閉めたまま  
 ⑤小言いう口に人差し指を立て

福田 芳記  
 中村 英三  
 高田 幸柳  
 久保あざみ  
 斉藤 蛙井  
 村上 昌子  
 佐藤まさあき  
 木村奈生美  
 瀧尻 善英

◆十和田たてがみ川柳会2月句会案内◆

【時】2月18日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉  
 社会館 【宿題】(各題三句詠)『つやつや』高田幸柳選  
 /『ついでに』木村奈生美選 【互選】(一句詠)『通過』  
 当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】一  
 題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者か  
 ら一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72  
 高田幸柳宛

「チャレンジ川柳!  
 むさし流!」のブ  
 ログはこちら

3万円/「豊島区長賞」/「豊島区教育委員会賞」/「全日本川柳協会賞」/「豊島区観光協会賞」/「豊島新聞社賞」\*各賞に表彰状・賞品呈上 \*各題秀句に賞品呈上【投句方法】応募料千円（郵便小為替・切手不可）何口でも可/投句用紙使用（コピー可）・又は便箋大の用紙（郵便番号・住所・氏名・電話番号明記）【応募締切】令和5年3月31日【発表】令和5年6月予定（発表誌呈）【応募先】170-0013 東京都豊島区東池袋1-42-12 ステーションサイドビル1階 平井熙宛【連絡先】電話 090-9817-2983

□ **2023.05.31** 〆 **第65回「不浪人賞」・第53回「年度賞」候補句募集**

【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方無料。無所属の方、又連盟日より（結果）の個人送付希望者はその旨を明記のうえ百円切手同封ください。（不浪人賞・年度賞1位に呈賞）【対象作品】2022年1月～12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可。\*2賞への同一句の応募は不可。【応募用紙】所定用紙（コピー可）またはA4の用紙を使用し、楷書で不浪人賞（3句）と年度賞（5句）を分け、それぞれに住所・氏名・電話番号を記入ください\*清記選【締切】2023年5月31日（当日消印有効）【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。尚連盟だよりは基本的に所属吟社に一括送付します。応募の際に所属吟社記入の事。【表彰】2023年9月23日（祝）川柳忌黒石川柳大会にて（予定）\*各賞1位に賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞係」宛【選者】☆不浪人賞（6名）渡辺梢（埼玉）・赤松ますみ（大阪）・鎌田京子（宮城）・新家完司（鳥取）・島田駱舟（千葉）・野沢省悟（青森）★年度賞（10名）長谷川酔月（秋田）・熊谷岳朗（岩手）・雫石隆子（宮城）・片倉卯月（山形）・駒木香苑（福島）・千島鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 電話 080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

句会、大会、誌上句会などの情報をお寄せください。

info@okajoki.com

※メール本文にベタ打ちでも構いません。

テキストデータで送っていただけると助かります。

□ **2023.02.20** 〆 **第11回春の川柳塔まつり誌上大会**

【課題と選者】（各題2句 共選）課題吟「花」中岡千代美（番傘川柳本社）・藤村亜成（川柳塔社）/「待つ」佐藤岳俊（川柳人社）・木本朱夏（川柳塔社）/「自由吟」樋口由紀子（「晴」）・小島蘭幸（川柳塔社）\*共選なので両選者に同じ句を出してください。【投句要領】既定の用紙（コピー可）または用紙の入手できない場合は便箋に。【投句料】1000円（切手不可）【投句締切】令和5年2月20日【送付先】〒543-0052 大阪府大阪市天王寺区大道1-14-17-201 川柳塔社 誌上大会係 宛 Tel/Fax (06) 6779-3490【賞及び発表】各題特選2句に賞呈 発表は川柳塔誌5月号誌上、川柳塔誌を購読されてない方には発表誌呈

□ **2023.03.18** 「らくだ忌」**第2回川柳大会**

【とき】2023年3月18日（土）午前10時開場 出句締切午前11時30分【ところ】ラポール京都（京都労働者総合会館）2階大ホール 阪急京都線・西院駅より徒歩約7分【開会】午後1時～【兼題】「泡立コ」湊圭伍選（愛媛）/「二周半」暮田真名選（東京）/「生い立ち」真島久美子 選（佐賀）/「無い袖」小上桐子 選（兵庫）/「ぶらり」新家 完司 選（鳥取）/「雑詠」くんじろう 選（大阪）※各題2句出し・各題に秀句賞※欠席投句拝受【欠席投句】2,000円（定額小為替・現金/切手不可 発表誌呈）※すでに欠席投句をお預かりしている方は受付にお申し出ください。【欠席投句締切】2023年2月28日必着。投句先は下記事務局まで。A4用紙（紙質自由）に簡条書き措書あるいはワープロ打ち可能。その際、連絡先お名前（雅号）住所・電話番号・メール等を忘れずにお書き入れください。【会費】2,000円（昼食は各自でお済ませください。発表誌呈）【懇親会】5,000円。定員40名・先着順 午後5時～（会場へは係員がご案内致します）【お申し込み・お問い合わせ】川柳らくだ事務局・実行委員会。〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 森 茂俊 MAIL:27sigtosi575@gmail.com

□ **2023.03.31** 〆 **としま川柳誌上大会**

【課題と選者】（各題2句提出）「アピール」赤松ますみ選（大阪）/「守る」安藤波瑠選（東京）/「主役」上村脩選（東京）/「壁」大野征子選（東京）/「描く」新家完司選（鳥取）/「未来」高瀬霜石選（青森）【表彰】賞は各特選句からの二次審査（松橋帆波・田岡弘・平井熙選）「2023 としま川柳誌上大会賞」賞金

■会費拝受【12月受付分】

ひとり静・柳本恵子(奈良県)/岩根彰子(京都府)/安藤なみ(愛知県)/熊谷冬鼓・吉田州花・小野五郎・滋野さち・横山キミエ・佐藤節子・前田悠遊・まきこ・渡邊静子・土田雅子(以上青森県)/奈良一艘・きさらぎ彼吾(以上弘前市)/まみどり・高木まあこ・ひとは(以上黒石市)/守田啓子(三沢市)/鳴海賢治(つがる市)/柳谷たかお(外ヶ浜町)/むさし・ひらく・坂本清乃(蓬田村)  
\*基金有難うございました(岩崎眞里子様・川柳吟行会「ぼ」様)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。  
→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社  
→会費:6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759  
(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田87-2)

終着駅 Sin

◆昨年のサッカーW杯で、それこそライト層と呼ばれるにわかファンにも「三笥の1mm」で名が知れ渡った三笥薫。その三笥に主人公がそっくりだと話題のサッカーアニメ「ブルーロック」が人気になっている。スポーツアニメのように青春キラキラものではなく、サッカー選手としての生き残りを賭けたサッカー版カイジというべきか、サッカー版イカゲームのような非現実的なサバイバル要素が他と差別化されていて、そこがウケている理由だろう◆高校生の娘も大好きで観ているようで、その話をしていると、「サッカー部の同級生に言わせると、サッカーの細かい技術の部分でちょっと違うって言うてる。」と言われたそう。作品における「虚と実」の話で、よく医療モノや刑事モノのドラマに、現役従事者から「現実と違う」とツッコミが

入るそれと同じ反応だろう◆同じくツッコミが激しいのが大河ドラマの時代考証問題。あくまでも時代劇であって、再現ドラマではない前提のはずなのに、「当時は恋愛結婚はなかった」というマクロ的な時代感を押し付けてくる声もあるが、恋愛感情はあったはずだし、奇跡的に両想いで結ばれたかもしれない、と考えた方が楽しいだろう◆昔、川柳を始めた頃、「月をどんどん捨てていく(全部は忘れた)」というような句を書いたら、父から「月は1個しかない」と評されたことが衝撃すぎて今でも鮮明に憶えている。月が何かしらのメタファーだと思うことより、「月は1つしかない」という事実のほうが大事だったということになる。「表現」と「伝達」の差異を説いた評だったのか、なんなのか、いまだにその真意はわからないままである◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2023.02.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(4月号分)

【締切】2月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】4/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2023.03.04 おかげょうき川柳社本社3月句会

【時】3月4日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【投句締切】3月3日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『飾る』/『歌』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句「遺伝」1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子) ■句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2023.03.08 「川柳吟行会 ぼ」3月句会

【投句締切】3月8日(第2水曜日)【題・投句数】『食べる』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2023.03.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(5月号分)

【締切】3月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】5/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

のないう街角医療ミス現場で読んだ週刊誌誰ですか山手子に石を投げるのは行く先は決めたぞだ真ん中で歩くまぐわうやひたくれないに風を待つ街を出る小さな鈴をぶらさげて大停電やと心がが青い荷物着た裸電球ぽんと素顔吊される電話から秋のどしどし泣いてゆく着地せる人間風と手を切って水吞んで太陽蒼んで僕発芽七回窪んだままの母の床刺すなら鈍く光った短剣で時雨降る引つも流氷の胎内いつも青い空マンモスと共存する青い空泥の手で生きているよと空に云う天空へ反戦の迷彩服に聴かせるリリマルン履屋書の筆を北の雪に書く日の石けん匂いかな満月に控が下げられている軍靴履く引つも生まれそうでもちよと揺らしますだから黙ってフェリー埠頭に雪じとしていれば夕陽にたまたまか性愛や砧の音を引き摺って芳一の耳によく似た勳章だまばたきの時は永劫かも知れぬふい

く嘔吐指で引火を喰い止める折り返いがつくまで空は伏せておく指定の中のメロンパン髪も米も洗った後の日曜日教室に並ぶ偽物の椅子針箱のまだ騒がしい金ポタン二等辺三角形の不整脈糖の鬼一匹作りの約束を破って君の砂を払い落とさしては雑草の顔生きてやせねん糸据えしたところ六法書堂いなこの闘いを終えてから機関銃はやめて花束が消えない晴々の地球の色で包む漆黒になるまで撫でた涙盡くなくていく失ったもの色戦争の色に染め上げられて飢え生きた煙にやと色がつく濃くなっていく失ったもの色他動詞のように葬列やってくる無で選るまでの命と酔いどれる君の寝ぐせもベッドのシワも気になって封筒の中で桜は満開に水差しと胃酸が置いてある仏間通電車で金太郎船になってゆく矢張り下たつた一つの前頭葉誤りを誰かが食べてくれている住みだした所に蜘蛛の巣を張るう訳あって禁止画像の中にある尾花ひだりは米の木何んも木起立まだすく木じゃなく

ないことが残ったあきらめて中東あたり流れの木が見た時は並んでいる並木すく刺の影も中にある昔花ひだりははらにかなわなと同じ量のばかり来世も雄である勝たまだすく木じゃなく疵など無からうがダヴィンチの生まれ変わりの蟹に遭う田の中でカカシともめる僕はノー反応こころは可憐なひと皿の夜をつまんで生き延びる折り返し地点でもらう紙コップ雨続く西アフリカの蝸である笑う吹けた隙のない真昼夢さめて二足歩行のカバネムを持ってわらわらする後の男のデスマスクまだ消えぬ根雪にきつと密かな手紙しつと濡れて着く指先の汚れにくに気が付くご焼香満月がある綿花反対者が居ない水が飲しくて少年の日を釣っている冬のデモ隊の泣き声掛かると外は雨平凡な日に戻るなり家出願望の耳が落ちてそうで首枷がきつて海を吐きそ

うだ陰抜きを探す途中の死の話吸って吐いて吸って吐いて「今度こそ」夜店の射撃で空を曲る鳥のため敵を撃つて鳴く馬になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰って耳の中のジャズ馬を生んだことは

が更地になったすな夕焼け黄昏の鳥で混み合う神経科お魚を唾えて空を曲る鳥のため敵を撃つて鳴く馬になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰って耳の中のジャズ馬を生んだことは

内緒で幻で家族みな夕焼け色の筆記体精米という空から空を曲る鳥のため敵を撃つて鳴く馬になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰って耳の中のジャズ馬を生んだことは

わめられぬ月光があんな色の筆を通過中下弦上弦をたける小泉の歌の向う向うホイに負けましたう泣く間に花むらさきの下半身葬列の泣かなくてはいけぬ列に寒いかと男

の帽子飛んでくる「これは鳥ですか?」「いいえ戦争です」端っこに墓地真ん中に無人駅鏡の転る先に土まじりみじみとホルン映画で聴くショパン赤とんぼ殺してほしい日の家路輪ゴムは

ちん人人でなくなる時が来る倒木のまま排明もできぬま明星に死体を捨てた奴がいる夕陽の中の中風を叩いてふみ僕こけしの穂雪こけしの瞳夕陽の絵の中で音階踏み外すあなた顔だ表札を照って試して行った風いななきを残して父は逝きました息を吐くたびに偽名を付けて死体だらけのノート書いている寒冷前線捜しあぐねたもばかり落ち椿まだ熱はある熱はある熱味増汁の味噌のどろりと老いてゆくキューイ剥く舌がラ行になってゆく沢山のピロイド満ちてくる生きている何だろ次の方どうぞ絶頂の少し手前の貸金庫取組早く早くと唆す未使用の部分

顔を誰にに見せようか口紅を塗られたのはコップじゃなく火葬場へ右へ右へと折れてゆく亡命者へ翼が乾きつてな点線の国境片足立している百年の鎖骨が並ぶ住所録人間に生まれ手で握り

大きなマシマロにあのひとのさみしい場所やと住む何もない掌に載せてみる秋の天子育ての方程式を愛で解くろくじゅう三文判の意思表示結納の見本に哭いた跡がある適切なお返事が来

冬が来が無いから作る雪つと父は神に於ける報復の種を狙って日の丸の真ん中辺にある腫瘍有限のまたキスを欠る人間であることだけで責められるほらと閉店セール閉店セール上

手子に捨てられましよう春の指先が流れる桃に届かない仁王門さくら吹雪さくら吹雪驚駭の貌で舞台の袖に居る男は闘う形で焼かかれて道草は空まで続く玩具ですトネルの向うで道

もめて見逃した男に羽根があることをシナモンはお嫌い?左ばかり見てクリムトのいちすいちは沼の底小児病棟のベンから咳が洩れてくる父さん帰ろう喪主が欠伸した一本の棘が背中

涙鏡に替えてみる鮫鱈の皮剥く力書くカスミ草秘ごとだって老化するスパーのレシートに飛ぶカカメ削除キー叩いて忘れて忘れたいどん底として静かな位置に佇たされるトッポ羽化

露丸ひょうたんのびんしんと銀河老人の海をながめているらう毛父の煙火の音船の進む音はふるさと死ぬまで浮標を吐いての対岸の村も貧しく陽を浴びる入れ墨の花にお水やりな

さいジハードへ純ちゃんラッパ鳴り響く燃えるもの傘寿嚴父にひとつある髪をすく指先にくと触れる鬘やがて陣痛がはじまる試験管分水嶺右も左も人の世で十ワットだが僕だけの自尊心生きてゆく

ページに朝の茸汁下蓋におおわれている仮眠紙いっぱい行き先だけの走り書きカサブランカダンディ三步前進する化石ペンラディンの陰毛に降る雪かしら病院の廊下に落ちている「しかし」



2023年2月10日発行(年12回発行) 第27巻第2号通巻347号  
●発行人/むさし●編集/Sin●発行/おかじょうき川柳社●表紙題字/金子榮風  
青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田中師宮本2の3 ●E-Mail:info@okajoki.com

おかじょうき川柳社  
http://okajoki.com/